



消費者教育NPO法人
お金の学校
くまもと

消費者教育NPO法人

お金の学校くまもと

会報・第25号 2013年夏季発行

〒862-0950 熊本市中央区水前寺1-6-11 セシール水前寺701号 ※住所が変わりました

TEL・FAX 096-384-4453 <http://ogk.main.jp/> Eメール: gakkou@sat.bbq.jp

発行責任者 徳村美佳

メシが食えるおとなになる

代表 徳村美佳

まいどおなじみ、Johnny's のアイドルグループ「嵐」ネタで失礼いたします。大野君担当 (Johnny's のファンは、自分のお気に入りのメンバーを勝手にだれだれ「担当」と称します。一方、AKB48ほか秋元康氏管轄の一連のアイドルグループのファンは、だれだれ「推し(お)」と称するようです) の徳村は、毎朝、大野くんのラジオ番組「ARASHI DISCOVERY」(FM横浜・午前6時45分～6時50分) の放送内容をチェックしております。当然、横浜の番組ですから、残念ながら直接聞くことは叶いません(よっぽど、横国大の西村隆男先生に録音をお願いしようかと思案した日々もございました)。しか～～し、世の中には殊勝な方もいらっしゃって、耳コピ(録音したものを聞き直して文章する)し、毎朝、自分のブログにアップしてくれてる方がいらっしゃいます。その方は、基本的に毎朝(月～金)仕事に出勤する前にアップされるので、私はそれを読んでから動き出せるという実にすばらしいしくみになっております。

前置きが長くなりましたが、先日の放送では、大野くんの幼少期のお話紹介されてました。こんな感じです。『なんかしんないけどちょこちょこしてた僕は、逆立ちが、たぶん当時、自分の中で流行ってたんだらうね。逆立ちしたら、そのままひっくり返った～後ろが食卓。で、これから食うぞってとこ。で、ガシャーン！やって。その瞬間ね、うちの母ちゃんがしたこと。3000円を出して、オイラのポッケに入れて「出てけ！」って。ふふふふ(笑) で、当時僕は3000円って大金なわけよ。子どもだから。こんな大金持って、外なんか出れない、出ていけない・・・と思って。出て行けなかったね。あれは覚えてるね。』

やんちゃで言うことを聞かない息子に、3,000円を出して「出ていけ」という母親。実におもしろい子育てではないでしょうか。このとき、大野君がいくつなのかよくわかりませんが(小学生くらいかと思われます)、3000円という金額の設定もみごとな感じがします。それに対し、3000円を大金と認識し、出ていけないと判断する息子。そういう感覚を身につけさせている点においても、非常に興味深い。ちなみに、大野くんは、高校に3日登校してすぐに辞めています。いわゆる中卒。しかし、書道4段。画家の奈良美智氏や草間弥生氏とコラボでTシャツのデザインもしている(人気アイドルだから実現したとしても、コラボに耐える画力は必要)、もちろん、歌やダンスは、言うことなし。

日々、生活困窮の相談を受けていると、メシが食える、メシが食えるおとなであるということが、どんなにラッキーなことであるかと痛感することが多々であります。不幸にも、そのような環境になかった場合、厳しい現実が目の前にあります。メシが食える力・メシを食っていくために必要な金銭感覚を身につけておとなになったひとは、とても幸せです。

「嵐」大野くん担当である私は、本当は大野くんのおかあさんの大ファンなのかもしれません。

生活者の視点に立った相談体制の構築と社会資源（困ったときに頼ることのできる場所やひと）の整備・充実化のための研修会

「チームで取り組む生活困窮者の相談・支援」

2013年2月1日、平成24年度熊本市町村等自殺対策推進事業補助金事業として、主に市町村職員・法律家・福祉関係者・民間団体等、支援者を対象とした研修会を開催しました。平日にも関わらず、多数ご参加いただきました。

第1部 基調講演：「新しいつながりが新しい解決力を生む」

NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク代表、清水康之さんを講師としてお迎えし、ご講演いただきました。ライフリンクでは、「自殺実態1000人調査」を実施し、自殺で亡くなられた方の「声なき声」に耳を傾け、自殺の社会的背景を浮き彫りにし、具体的支援へつなげる活動をされています。実態調査によると、自殺で亡くなる前にどこかの相談窓口で相談している人は72%。相談する先が適切でなかったのか、問題悪化のスピードが速かったのか……。いずれにせよ、多数の方が、助けを求めて1歩踏み出していることがわかります。「地域のどの相談窓口にも相談が来ても、適切な社会資源につながるような相談支援のネットワークを構築することが重要」と東京都足立区のネットワークを例にお話されました。「問題を解決するコストを、本人に全部抱え込ませるのか？それとも、一部を地域が担うようにするのか？今は、これを考える分岐点に来ている。」と、清水さん。2012年は、全国の自殺者が15年ぶりに3万人を下回りましたが、高止まりの状況に変わりはありません。「生きる支援」のために、支援者がやるべきことを再考させられる時間となりました。

講演の最後に、素敵な言葉をいただきました。

「ライフリンクのモットーは『新しいつながりが、新しい解決力を生む』。設立当初（8年前）は理念だったが、いまや確信に変わっている。「私たち一人ひとりには微力だが無力ではないのだから」。」

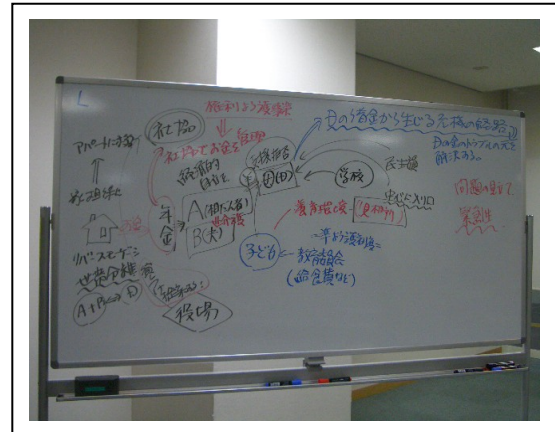


第2部 ワークショップ：「レシートから相談者を想像してみよう」

トトハウス前田芳男さんをファシリテーターに、『レシートプロファイリング』というゲームをグループに分かれて行いました。ある人の1週間分のレシートから、人物像を推定するゲームです。

『ピーナツ豆腐買ってるから、少し高齢の人かな?』『ファンタを買ってるということは、小さい子どもがいるくらいの主婦?』などなど、レシートの隅から隅まで観察し、推理力をフル回転し、議論が白熱しようとしたところでタイムアップ。

みなさん、推理は解けたでしょうか。



第3部 ケース検討：「チームで取り組む生活困窮相談」

“井戸端会議”による事例検討です。『病院代が払えません』こんな相談があったら、あなたはどうか対応しますか? 「払うお金がないなら、借りたらどうですか?」とアドバイスしますか? 答えは×です。よくよく話を聴くと、夫の介護問題、子どもからの経済的虐待、孫の養育、自死念慮・・・etc。相談の中には、お金の問題だけではない、その他のたくさんの問題が潜んでいます。ワークでは、「相談者が困っていることは何か?」「相談者の現状に気づいた場合、自分の立場でどのような支援ができるか?実際に支援するためにはどうすればいいか?」を、個人ワーク・グループワークで検討しました。

「介護の問題があるので、地域包括支援センターとの連携ができないか?」「経済的虐待として、子を引き離すことができないか?」「食生活・家事がどうなっているのか心配」「自殺念慮があるとのことなので、精神科医療へつなぐ必要があると思う」など、活発な意見が出ました。

「お金の学校くまもとのモットーは『でけたしこ』。できることを精一杯やったら、それだけでOK!できただけでよか。設立当初(8年前)は理念だったが、いまや確信に変わっている・・・」という代表徳村の、どこかで聞いたことのあるフレーズで、今回の研修会は終了しました。

～参加された方から寄せられた感想～

- ・個人の問題としてではなく、環境の問題としてネットワークを組んで支援していくことの大切を感じました。
- ・色んな職種の方の参加がありびっくりしました。今自分は何ができるのかを考えさせられました。
- ・多様な社会になるにつれて、新しくつながれる力が必要だなあと実感しています。
- ・それぞれの立場で解決する為の意見がたくさん出て、いろいろ考える事ができました。

「トルコ人は悪いヤツ!？」

司法書士 新川 芳宏

ウッチーから自由に書いてくださいと言われたものですから、妻と行ったトルコ旅行でのトルコ人との交流について書きたいと思います。

トルコ。トルコ料理は世界三大料理のひとつ。そこは親日家が多い国。今回トルコを旅行して私を感じたトルコ人の印象、それは…「トルコ人は悪いヤツである!」いや、正確には、「日本語を話すトルコ人は悪いヤツである!!」です。よく言えば「商魂たくましい人」ですが、まあ～行く先々にポッタクリトラップが張られている訳です。土産物屋の商品が高いのは当たり前ですが、トイレ休憩で下りたガソリンスタンドの売店の商品もすべて「定価の記載の上から、さらに高い値札を張り付けている」ものばかり（当然トイレは有料）。しかし、私は一応司法書士の肩書を持ち、多重債務の相談では家計簿を見て「あ～これ買った後、後悔せんだったですか?」と厳しいことも言い、なによりお金の学校くまもとの会報に調子乗って寄稿するようなヤツです。「そんな安いポッタクリの手口に引掛かるか!」と心の中で毒を吐きながらアルカイクスマイルでポッタクリトラップは華麗にスルーです。

安物ツアー旅行だったので、お土産屋見学と称する「ポッタクリタイム」が設けられていました。パシュミナ・本革製品・ペルシャ絨毯 etc.み～んなスルーです。ふふん(ー)

事件はトルコ石の宝石店で起こりました。例のごとく「今からトルコ石でポッタクリますよタイム」が設けられ、店内に連れ込まれる「ネギを背負って鍋に入る鴨御一行様」。トルコガイドブックには必ず載っている有名なトルコ石のお店なので偽物をつかまされることはないのでしょうか、問題はその値段。「トルコ石っていつからダイヤ並みになったの?」っていうお値段。お店の中は日本のブランド店と同じくショーケースにキラキラと輝くトルコ石の装飾品がズラリ。川の流れるに例えると上流に行くほど値段が跳ね上がっていくのも同じ。

「ポッタクリトルコ人の皆さまお疲れ様です。時間の無駄なので他にあってクレタマエ。」と心でつぶやきながら一応ショーケースを見てるふりする私（ソファに座っていると店員が束になってかかってくるので余計面倒）。は～、こんなもの買うやつの気が知れんと思った矢先、

「買ってくれる?」

疑問形なのになぜか命令口調のその言葉の先には Oh! my honey! \(\odot\odot)/!まさかの裏切り。敵は本能寺にあり (I am not 光秀 but 信長)。しかもそんな上流にいる!

どうやら妻は私のことを「トラップを華麗にスルーする頼れるナイスガイ」ではなく、「せっかくの旅行気分をぶち壊す、斜に構えたドケチ・ク○野郎（以下、自粛）」と認識していたようです。土産物屋でお菓子や雑貨を買うより、「イオンみたいなトルコの大型スーパー」で嬉々として現地トルコ人が買うお菓子・食料品を買いあさる妻でしたが、「自分の記念の品は例外」という乙女心を私は全く理解していませんでした。

さあ、トルコ石は買わねばならない。しかし、ぼったくられるのは御免です（そもそもそんな金はない）。尻に火がついた、もとい、「絶対に負けられない戦いがそこにはある（昔流行った）」いや、「いつ戦うの?今でしょ!（最近流行った）」「誰がやる?君だよ（これは流行らなかった）」の精神でトルコ人女性店員と立ち向かう私。さあ、かかってこい!!（以下次号）

長洲町六栄小学校でのワークショップに参加して

上野 達哉

昨年9月30日(日)に長洲町六栄小学校でワークショップ(人生いろいろやりくりゲーム&お買いものゲーム)に参加させて頂きました。その時感じたことなど感想を書いてみました。まず、私自身、人生いろいろやりくりゲームとはなんぞや?という何も分からない状態で参加しました。徳村さんのお話を聞きながら、子どもたちと共に私にも、とても勉強になり、いろいろと考えさせられました。「欲しい」と「必要」の違い。欲しいとは手に入れたいこと。必要とはなくてはならないもの。この違いは理解しておかなければいけないものだと強く感じました。

また、やりくりゲームでは、ゲーム機を買うためにどうすればいいかという問題に対して、こつこつ貯金をしていく、おじいちゃんおばあちゃんやお母さんからもらうなど、様々な回答がありました。5~6人一組となっていたやりくりゲームでは、一家族を作り、ふりかかる出費をどうやりくりするのかという問題では、何を削るか、それぞれの立場から考え発言し、とても良いゲームだなと思いました。

大事なことは、限りあるお金でどうやりくりしていくか。そのやりくり方法で実際やって行けるのかはまだ先の話として、まずは、お金には限りがあることを知ること。その中で「必要」な物を調整していく。時には「欲しい」を我慢する。そういう体験を出来ることがとても素晴らしい事だと思いました。私自身ももっとうまくやりくりしなければいけないと痛感しています。

お買いものゲームでは、子どもたち一人ひとりに300円ずつ持たせ、実際にお買いものをするというものでした。これも、300円という限りあるお金の中で、子どもたちに自分で考えやりくりさせるととても良いゲームだと感じました。ゲームが始まると子どもたちはすぐに何でもかんでも買うのかなと想像していましたが、いざ始まってみるとそうではなく、何回もお店を行ったり来たりしたり、お金と値札を交互に見てにらめっこしていたり、どうやりくりしようか一生懸命に考えていたのがとても印象に残っています。

私自身やりくりゲームというものは初めての体験でしたが、とても興味深く、子ども達にこの経験は必要だと思いました。私は今、子ども夢基金において子ども向け教材開発企画の申請を行っております。今回の六栄小学校での体験は私自身にとっても大きな影響を与えました。申請が通るかはまだ分かりませんが、この体験を踏まえ、よりよい教材を作っていきたいと思えます。

予算は、300円!
100円の金券が3枚

これは、おつりの金券
80円のものを買ったら、
100円券を出して、20円と
書かれた金券をもらいます。



事務局だより

◆活動日誌

- ・ 5月24日(金)例会
- ・ 5月 9日(木)県多重債務対策協議会専門部会、出席：内田
- ・ 6月22日(土)定期総会・例会
- ・ 6月27日(木) 県民カレッジ 「安心安全コース」ワークショップ 徳村
- ・ 7月 9日(火) 熊本県多重債務対策協議会、出席：内田、山下オブ参加
- ・ 7月20日(土)例会
- ・ 7月26日(金) 長洲町6校(長洲町内の中学校2校・小学校4校の保護者) 合同研修会
「こんなとき、どうする？子どもとケータイトラブル」
- ・ 8月 9日(金) 県自殺対策連絡協議会 出席：徳村 山下オブ参加

◆今後の予定

- ・ 8月21日(水) NPO法人でんでん虫の会 会員 やりくりをテーマにしたワークショップ
- ・ 9月8日(日) 長洲町清里小学校 5・6年生と保護者 「人生いろいろやりくりゲーム」
- ・ 10月26日(土) 山鹿市社協 山鹿市内の小学校5年生 「人生いろいろやりくりゲーム」
- ・ 12月6日(金) 玉東町山北小学校 5・6年生と保護者 「人生いろいろやりくりゲーム」

編集後記

天候異変です。七月に入って九州は早々に梅雨が開けましたが、全国的にはゲリラ雨による水害が各地で発生しています。一方、雨量が少なく農作物の生育に影響が出ている地域があります。

さて、「会報」の編集体制を再編し新しい編集委員を迎えました。結果、この間、不安定な発行状態を克服し、春季号に続き夏季号を発行することができました。今後も引き続き内容の充実と定期発行に努めたいと思います。ちなみに編集委員は、久木田麻素美、木下智子、山下紗喜子、内田理の四名です。

今回は、2月に開催された「チームで取り組む生活困窮者の相談・支援」の研修会を掲載しました。ライフリンクの清水康之代表の講演は日々の自殺防止に向けた濃密な実践活動を通じた貴重な話が聞けて良かったと思います。

ペンリレーは、荒尾市在住の司法書士・新川芳弘さんに多忙な中をご寄稿いただきました。悪徳商法の国際版といった内容ですが、トルコの方と新川ご夫妻のやりとりがとてもユニークです。上野達哉さんの「長洲町六栄小学校でのワークショップに参加して」の原稿は、昨年秋にご寄稿いただきましたが、私の怠慢で長期にたなごらしの状態で開催が遅くなり大変ご迷惑を掛けました。新川芳弘さん、上野達哉さんご多忙な中をご寄稿いただき有難うございました。

(内田)

